

科目名	建築実務演習 1							年度	2026
英語科目名	Architectural Practice 1							学期	後期
学科・学年	建築学科 3年次	必/選	選	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	小林 猛	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		

**【科目の目的】**

建築設計の実務を、設計課題を通して学ぶことで把握することを目的とする。  
 その中で、下記の項目に特に重点的に取り組む。  
 ・建築物の確認申請について、設計課題をもとに申請図を完成させることができる。  
 ・他者が完成させた申請図を、審査することができる。

**【科目の概要】**

実務的な知識を必要とする設計課題に取り組む。与えられた条件をもとにして事前調査を行い、必要となる情報を自らの力で収集する。また建築法規で身につけた知識を活かして確認申請図書を作成し、建築基準法に適合した建築物の設計を行う。他者が設計した確認申請図書について、確認検査員的な観点から審査することを目標にする。

**【到達目標】**

次の3点を到達目標とする。

- ・事前調査で必要な情報を収集することができる。
- ・該当建物の建築法規の確認をすることができる。
- ・確認申請図書を作成することができる。
- ・他者の設計した確認申請図書を審査することができる。

**【授業の注意点】**

評価はルーブリックにもとづいて行い、指導教員等により評価を行う。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	情報を十分に収集することができる		情報を収集することができる		情報を収集することができない
到達目標 B	建築法規の確認を十分にすることができる		建築法規の確認をすることができる		建築法規の確認をすることができない
到達目標 C	自らの力で確認申請図書を作成することができる		指示通りに確認申請図書を作成することができる		確認申請図書を作成することができない
到達目標 D	自らの力で他者の確認申請図書を確認することができる		指示通りに他者の確認申請図書を確認することができる		指示通りに行っても他者の確認申請図書を確認することができない
到達目標 E					

**【教科書】**

配布資料による

**【参考資料】**

配布資料、pdfデータ等

**【成績の評価方法・評価基準】**

各回の課題提出、図面の完成具合、審査への取組み姿勢から総合的に判定する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		建築実務演習 1			年度	2026
英語表記		Architectural Practice 1			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	設計課題の進め方	どのようにして課題を進めるか？	1 課題条件の把握	課題文を読み内容を把握することができる	2	
			2 課題条件の整理	課題条件を整理することができる		
2	事前調査 1	事前調査はどう進めるか？	1 事前調査の概要	事前調査の概要について理解している	2	
			2 事前調査の進め方	事前調査を進める際に必要な事項を理解している		
3	事前調査 2	事前調査で分かったことは何か？	1 事前調査のまとめ	事前調査で得た情報をまとめることができる	2	
			2 資料の制作	事前調査結果を資料にすることができる		
4	情報の共有	他者はどんな情報を得たのか？	1 他者への説明	他者に自分で得た情報を説明することができる	2	
			2 情報の吸収	他者の情報を選択し自身の情報に付加することができる		
5	基本設計 1	どんな大きさの建物ができるか？	1 集団規定	集団規定の建築物の制限について理解している	2	
			2 大きさの検討	計画する建物の最大の大きさを把握することができる		
6	基本設計 2	どんな間取りの建物ができるか？	1 単体規定	単体規定の建築物の制限について理解している	2	
			2 間取りの検討	計画する建物の間取りを検討することができる		
7	基本設計 3	どんな計画の建物ができるか？	1 要求条件への回答	課題要求条件を建築的に解決する方法を発見できる	2	
			2 間取りの検討	条件を整理して建築的にまとめることができる		
8	設計図完成	設計図をまとめるのに必要な情報は何か？	1 設計提案のまとめ	時間内に設計案をまとめることができる	2	
9	基準法確認	法を逸脱していないか？	1 法の適合	法に適合しているか判定することができる	2	
			2 案の修正	法に適合するために案を修正することができる		
10	申請図書作成 1	確認申請図書とはどんなものか？	1 必要図面の把握	確認申請図書の図面に必要なものを理解している	2	
			2 提出工程の確認	いつまでに何を仕上げるか計画を立てることができる		
11	申請図書作成 2	建ぺい率・容積率・高さは適合しているか？	1 建ぺい率・容積率の確認	建ぺい率・容積率は適法かを判定することができる	2	
			2 高さの確認	高さは適法かを判定することができる		
			3 案の修正	法に適合するために案を修正することができる		
12	申請図書作成 3	採光・換気は足りているか？	1 採光の確認	案が採光条件に適合しているか判定することができる	2	
			2 換気の確認	案が換気条件に適合しているか判定することができる		
			3 案の修正	法に適合するために案を修正することができる		
13	申請図書作成 4	概要書には何が必要か？	1 必要書類の把握	概要書には何が必要かを理解している	2	
			2 各種図面の作成	必要な図を作成することができる		
14	申請図書完成	申請図書は完成しているか？	1 申請図書のまとめ	期限内に申請図書をまとめることができる	2	
15	審査会	他者の設計はどうなっているか？	1 他者への説明	自分の資料を他者へ説明することができる	2	
			2 他者の案の理解	他者の情報を選択し自身の情報に付加することができる		
			3 他者の提案の審査	他者の提案		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等